



DOKKYO

姫路獨協大学同窓会報

2002
Vol.9



写真：快進撃を見せた硬式野球部

■ 新年INTERVIEW 木村修三学長に聞く!!

■ 姫路獨協大学今昔物語 PART3

■ 第5回同窓会総会のご報告

■ 同窓会TOPICS

■ DOKKYO NOW

姫路獨協大学
同 窓 会

〒670-8524 兵庫県姫路市上大野7-2-1
TEL (0792) 23-9263 FAX (0792) 23-9263

U R L <http://www.hdud.gr.jp>

Eメール honbu@hdud.gr.jp

木村修三学長に聞く!!



木村修三学長

昭和9年、青森県生まれ。早稲田大学第一政治経済学部卒業。参議院参事、在イスラエル日本国大使館特別調査員、同常任委員会主任調査員、神戸大学法学部教授、姫路獨協大学法学部長などを経て、平成13年

2002年新年号の巻頭インタビューは昨年夏に就任されたばかりの木村修三・新学長です。専門分野でもある中東情勢について詳しく説明される様子をテレビのニュース番組などでご覧になった人もいることでしょう。この度は、厳しい経済情勢・少子化という大きな流れの中、今年開学15周年を迎える姫路獨協大学はこれからどのようにすれば発展していくのかをテーマに話していただきました。

ーインテグレーションとミーティングルーム、部室を備えた新しい武道館を来年度中に新設します。また、グラウンドに野球部用の部室、弓道場に更衣室とトイレ、テニスコートには夜間用照明と部室を3カ年計画で整備します。ほかにもパソコンのリース契約更新時に全機種をウインドウズに統一したり、同時通訳設備のある語学教室の整備、大講義室へのテレビモニター導入なども考えています。

ー来年は本学も開学15周年を迎えますね。

そうですね。現在、15周年記念事業の大きな柱として4つのことを審議中です。1つ目は先程申し上げました教育、学生環境の整備ですね。武道館新設はその一環です。2番目は奨学金制度の大幅拡充です。今までは年間3000万円台だったんですけど、その3倍くらい出すつもりです。3番目は海外語学研修についてです。外国語学部は必修なんですが、全員の航空運賃、滞在費を負担するわけにはいかないですから、例えば試験の成績に応じた額を出すと。ただ、アメリカで同時多発テロが起きてから、全員行かせるのは無理ではないかという議論も出まして。行きたい人はもちろん行けるようにしますが、行けない人については行かなくても単位が取得できるような代替処置を講じればいいのかという意見もあります。基金を作ることに關しては現在議論中です。4番目は記念式典をどうするかということです。これは市内のホテルを貸し切つて大々的にやろうという計画だったんですが、私はそれはやめよう。15周年というのは中途半端ですし、経済的に非常に切迫しているでしょ。派手なパーティをやるよりは、武道館の完成を兼ねてささやかな記念式典をやる。それで済ませようということです。今申し上げた4つの柱のうち、1,4番目に関してはだいたい固まっております、2,3番目に関しては現在検討中です。

ー獨協学園と本学の今後の連携のあり方についてはどのようにお考えですか？

学校法人としては獨協学園に属しているわけです。獨協学園というのは高等学校、中学校がそれぞれ2つ、獨協大学それから獨協医科大学、姫路獨協大学、それから獨協医科大学には病院が2つと、結構な大所帯なんですよ。もちろん、私たちが開設の経緯からして、学校法人獨協学園の傘下の大学ですからその建前を崩しません。例えば、天野貞祐博士の教育理念など大きな方針はもちろん獨協学園に沿っていきます。しかし、地域として姫路市にあるわけですから、具体的な教育のあり方、地域との結び付きというのは姫路獨協大学が自主的にやるしかないということです。交流できるものは交流し、独自性も出していきたい。現実にも、非常勤講師を交換したり、将来的に司法制度改革でロウ・スクールという構想があるのですが、これは姫路獨協大学単独ではできませんから。例えば獨協学園全体で実施するのであれば、その中に姫路獨協大学法学部も加わっていかねばなりません。

ー先程少し触れられました、地域との関わりについてお聞かせください。

まずは、この地域の市立高校の生徒が指定校推薦で喜んで入学してくれるように大学の評判を良くしなければいけないですね。例えば高校の要望に応じて出前講義をしに行くとか。そこで大学の講義というのはこういうものだと思ってもらうことを考えています。それから、今でもやっていますけれど、社会人入学をできるだけ拡充したいと考えています。今、現にやっているのは「国際理解講座」といって、地域の小学生に本学の留学生を派遣して児童と交歓したり、夏休みにはキッズ英会話を実施しています。そういうものを拡充することによって地域との結び付きを強めていきたいですね。

ー我々同窓生も及ばずとも本学の発展に協力したいと思っています。

本学はまだ15年しか経っていませんが、同窓生の皆さんは特にこの地域でいろいろな活躍をされていますよね。今、大学全体が厳しい局面に立たされています。例えば就職活動をするにしても、うちの学生はどちらかというとシャイな学生が多くて、そのせいで就職活動に出遅れてしまっています。そういう意味で、地域で実際に活躍している先輩方にできるだけコンタクトを取るようにと指導していますので、学生がコンタクトを取ってきた時にはぜひご指導していただきたいと思います。それともう一つ、同窓生の皆さんにはもっと気軽に母校に立ち寄ってもらいたいですね。

ー学長就任のいきさつと現在の心境をお聞かせください。

姫路獨協大学に常勤で来るようになって3年半。本学のことをあまりよく理解していないので、学長には古くからいらっしゃる方が就く方がいいと思っていたんですが、評議会で学長候補の1人に選考され、最終的に選ばれてしまったんです。辞退しようにもできない状況でした。選ばれた以上は全力を傾けてやるしかありません。

ー本学について、どのような印象をお持ちですか。

開学3年目から「第三世界論」という専門科目で非常勤で来ておりましたので、本学がどういう大学かということはある程度知っていました。姫路市を中心に播磨の方々のご要望と獨協学園の新たな大学を創設したいとの希望、両者の合意のもとに開設されたわけですが、非常にいい先生方を集め、新設大学にしては図書館も充実していますし、いい大学だと思っていました。

ー今の状況については、どう思われていますか。

最初は志願者も多く、新しい大学としては学生諸君も授業を真面目に聞いてくれていました。ところが残念なことに志願者がだんだんと減ってきて…。特に4年程前からかなり急激に減りました。今、競争率が低くなってきていますから、入学してくる学生の学力が少し落ちてきたかな、という感じはありますね。それは否定できません。これは、少子化や長期にわたる経済不況の影響もあります。ですが、こういうことを言うとも怒られるかも知れませんが、開学当時は全然苦労しないで受験生がたくさん集まってきましたよね。ところが、地元の優秀な高校からだんだん来なくなりました。ということは、本学の教育にかける情熱とその中身が地元の期待を裏切ったんじゃないかと思うのです。そのことを深刻に反省して、もう一度教育の中身を抜本的によくしていかなければならないと考えています。

ーそのための具体的な方策をお聞かせください。

今、私は2つの大きな柱で本学の評判を立て直そうと考えています。教育の中身の充実と学生のための環境整備です。

教育の中身についてですが、地元の高校の先生から、語学教育とりわけ英語教育が必ずしもよくないという話を聞きますよ。で、学生の実力に合わせて本当に必要な語学教育ができる先生をと、来年度から英語学科を中心に新たに6人来てもらいます。もう一つ、学生が何を求めているかということ、就職へのステップという意味から、いい会社に入る、公務員試験に受かる、あるいはいろいろな資格の試験に受かる、そんな教育が必要なんです。そのための支援講座を拡充していきます。それから、授業の中身を改革するため、今年度から学生による授業評価を実施しています。いつも授業が同じで休講も多くなり熱心でないとか批判がありますので、学生がどの程度それぞれの先生の授業について満足しているかを調査して先生の意識改革につなげます。これは毎年実施します。

次に環境整備についてですが、やはり今は都会志向の若い人が多いわけですから、学生が大学に居ることに魅力を感じるような、楽しい時間を過ごせるような大学にしていこうということです。本学には剣道・硬式野球・弓道・ソフトテニスの4競技でスポーツ特別選抜制度を設けています。この制度で学生を呼ぶ以上は指導者も必要ですが、施設も必要です。そこで、剣道場2面、柔道場1面、ト

